

古賀市生涯学習笑顔のつどいについて（概要）

令和5年4月

1. 取り組みの経緯と目的

平成25年に第2次古賀市生涯学習基本計画が策定されるにあたり、平成24年度の社会教育委員の会議において、提言『第2次古賀市生涯学習基本計画策定に向けて』を提出しました。

その提言において、①いつでも学べる環境づくり②人と人をつなぐ、学びの仕組みづくり③地域がつながる、学びの場の支援について述べるなかで、具体的な対策として「生涯学習市民会議（仮称）」の設置を求めました。

そして、社会教育委員が中心となり古賀市を生涯学習社会へと発展させていくための「場」として「生涯学習市民会議（仮称）」が実現することとなり、事業名を「生涯学習笑顔のつどい」とし、平成26年6月に第1回目を開催。テーマは古賀市の生涯学習の新たな幕開けをイメージし「新しい朝がきた」としました。

2. 古賀市生涯学習笑顔のつどいの経過

「生涯学習笑顔のつどい」は第1回から第5回にかけて、市内の各地域で活動されている多彩な社会教育関係の団体の方々に活動発表をしていただき、参加者の活動の広まりや深まりに大きな刺激となったと考えます。このことから、社会教育の地域での活動を交流し・学び・拡げ、地域づくり・人づくりに活かすという当初の目的は達成できたと考え、第5回目をもって、「笑顔のつどい」の第1ステージを終了しました。

「生涯学習笑顔のつどい」第2ステージでは、共感や相互のつながりがより深まることをねらいとして、第6回は分科会形式で行いました。その後新型コロナウイルス感染症の流行により2度の延期を経て、第7回はパネルディスカッション形式としましたが、そのコロナ禍の中での活動という、現在すべての団体が直面する問題に対する解決策を模索しました。

3. 笑顔のつどいが大切にしていること

笑顔のつどいの企画にあたり、「古賀市の活動団体の発表をメインにする」ということを意識しています。著名人の講演等ではなく、日々熱意を持って活動している方々の姿を、多くの人に知らせ共感を得ることが大切と考えているからです。そのため、多様な団体を発掘し、いろんなジャンルの活動を紹介することを心がけています。

また、古賀市で一人ひとりの人生を豊かにする生涯学習活動に携わっているさまざまな人や団体が集い、地域や分野の垣根を越えてそれぞれの活動が交流し合う場をつくり、そして参加者の皆さんが笑顔になれることをめざして開催しています。

4. 第1回~第7回までのつどいの内容

回数	テーマ	開催日
第1回	新しい朝が来た！	平成26年6月15日(日) 参加者数 338名
	活動発表：古賀ひよっとこ愛好会、ココの会、アコースティックバンド 実践報告：寺子屋 in 庄、星の子文庫、花鶴丘3丁目区福祉会	
第2回	出会い・つながるときが来た	平成27年5月31日(日) 参加者数 275名
	活動発表：Double D、コールドルチェ コーラスグループ 実践報告：古賀西コミュニティ運営協議会、谷山区かたりたい	
第3回	つながり・ひろがる時が来た！	平成28年8月7日(日) 参加者数 170名
	活動発表：古賀キッズプラス、りんコール(コーラス) 実践報告：古賀東校区コミュニティ協議会、古賀市緑のまちづくりの会、古賀東中学校 PTCA 学力向上支援委員会(『朝勉&朝弁』の取り組み)	
第4回	育もう、地域の力！	平成29年7月17日(月・祝) 参加者数 195名
	活動発表：福岡県立玄界高等学校 邦楽部、NPO 法人古賀新宮子ども劇場 実践報告：千鳥校区コミュニティ、松原ネット花見	
第5回	あなたの笑顔が地域の力	平成30年9月2日(日) 参加者数 151名
	活動発表：カチカチ会、なないろハーモニー 実践報告：古賀スタイル、青柳校区通学合宿	
第6回	みんなで育てよう！笑顔で語り合おう！ 未来を支える子どもたちのために	令和元年9月1日(日) 参加者数 136名
	オープニングアトラクション：古賀中学校吹奏楽部 全体会実践発表「星の子文庫」 分科会「星の子文庫」「東小放課後子ども広場」「鹿部子育てサロン」 「子どもパートナーズHUGっこ おそらのしたで♪」「北中校区もりあげ隊」	
第7回	発見発掘！古賀のステキ活動 ～コロナ禍での活動どうしたらできる～	令和4年6月12日(日) 参加者数 51名
	パネリスト：日吉台区、劇団 DAICOON、花見小学校 PTCA ゲスト：古賀市市民活動支援センターつながりひろば	

5. 第8回笑顔のつどいについて（当初案）

第8回「生涯学習笑顔のつどい」については、令和4年度時点で企画したものです。

テーマ：「リスタート つながろう ～人と文化の継承～」

第7回ではコロナ禍の中でも活動するための工夫に焦点をあてたが、第8回では新型コロナウイルス感染症を経て、元通りとなりつつある社会の方に焦点をあてる。現在、コロナ禍が開け、また活動は出来るようになったが、コロナ禍の数年間で多くの地域や団体で活動が分断され、引継ぎが上手くなされなかったり、会員が減少したり、活動に消極的だったり完全と元通りとはいかない現状がある。そのため、先進団体のパネルディスカッションにより活動継続や次世代育成のヒントを学んでもらうことを目的に第8回笑顔のつどいを行いたい。

発表団体
中野 恭子 氏（古賀市文化協会・合唱講師） 古賀市の合唱サークル「女声コーラス アマービレ」の講師を行っており、古賀市文化協会主催の童謡まつりでの審査員も務める。生徒も児童から成人まで幅広く、長く古賀市の合唱活動の中軸を担っている人物。
小野校区運営協議会 平成20年に設立。本部は小野小学校内ほたるの宿。小野小学校区5行政区が協力し合い活動を行うことで地域活性化を図る団体。独自のスポーツ大会などのほか運動会やおのまつり（学習発表行事）など小野小学校行事での地域活動も行っており、地域と学校を繋いでいる。
古賀市少年の船 少年少女が保護者の元を離れボランティアと共に宿泊学習をする事業。毎年8月に沖縄に滞在。古賀市では平成2年に開始し昨年、第32回が無事終了した。市の主導から始まり、現在は一般団体として活動している。

【パネルディスカッション構成】

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1. OP | 3分 |
| 2. 開会あいさつ、問題提起 | 5分 |
| 3. パネリスト自己紹介、活動内容 | 10分 (3分/人) ① |
| 4. 団体設立の経緯や発表者が活動に関わった経緯 | 10分 (3分/人) ② |
| 5. 現在の活動状況 | 10分 (3分/人) ③ |
| 6. 人材育成、継承について実践発表 | 15分 (5分/人) ④ |
| 7. フロアとの交流 | 20分～30分 |
| 8. 今後の展望 | 15分 (5分/人) ⑤ |
| 9. 閉会挨拶 | 5分 |

計 100～120 分程度

【パネリスト発言内容案】

●中野 恭子 氏

- ①自己紹介、合唱団体の概要説明
- ②合唱の指導者になった経緯、団体を立ち上げた経緯
- ③コロナ禍の影響
- ④後続の育成や団体継続のコツ、気を付けていること
- ⑤会員および自身の今後の展望

●小野校区運営協議会

- ①自己紹介、運営協議会の活動の概要説明
- ②運営協議会設立のきっかけ、発表者が活動に関わったきっかけ
- ③コロナ禍の影響
- ④後続の育成や団体継続のコツや気を付けていること
- ⑤今後の地域づくりへの展望

●古賀市少年の船

- ①自己紹介、少年の船の概要説明
- ②少年の船の目的と設立、活動に関わることになったきっかけ
- ③コロナ禍の影響
- ④参加した青少年の影響やその後の活動
- ⑤船および参加者の今後の展望

【各委員の役割】

司会	
コーディネーター	
調整担当	
中野恭子 氏	正 橋爪委員
	副
小野校区運営協議会	正 村山委員
	副
古賀市少年の船	正 丸井委員
	副